

代表的スケジュール(観点)	段階	「課題研究」の目標との関わり	実現が期待される生徒の姿	A	B(標準)	C
知識・技能の収集 研究課題設定 研究計画策定	発見 ～ 深化	学びに向かう力、人間性	Bの内容	未知に挑戦する好奇心		
				自分の好奇心・関心に基づき、課題意識を持ち、「問い」を解決の見通しの立つ課題にすることができる。	自分の好奇心・関心に基づき、課題意識を持ち、漠然とした「問い」へと導くことができる。	自分の好奇心・関心に基づき、疑問点を発見している。
		思考力、判断力、表現力	Bの内容	物事を多角的に見る力		
	知識及び技能	Bの内容	Bの内容	課題を解決するための、実現可能な研究手法を、複数挙げることができる。	課題を解決するための、実現可能な研究手法を挙げることができる。	問題を解決するための、実現可能な研究手法を検討できる。
				情報を収集する力		
		目的に応じて情報を抽出し、研究に関連する分野に限定しない知識を習得し、自分の言葉で説明することができる。	目的に応じて情報を抽出し、研究に関連する知識を、自分の言葉で説明することができる。	目的に応じた情報収集ができています。		
実験・協議等 中間発表会	深化 ～ 創造	学びに向かう力、人間性	Bの内容	答えのない問いに向き合う姿勢		
				解決の見通しを立てた課題について、複数の可能性から、自らの状況にあった手法を選択し、研究をすすめることができる。	解決の見通しを立てた課題について、自らの状況にあった手法を用いながら、研究をすすめることができる。	解決の見通しを立てた課題について、自らの状況にあった手法を探している。
		思考力、判断力、表現力	Bの内容	論理的、批判的思考力		
	知識及び技能	Bの内容	Bの内容	他のアプローチの可能性を示唆しながら、説得力のある理由や複数の根拠に基づいて、自分の考えを主張することができる。	説得力のある理由や複数の根拠に基づいて、自分の考えを主張することができる。	自分の考えを主張することができる。
				情報を活用する力		
		直接研究に関わる知識だけでなく、研究を推進する深い知識を備え、適切に活用できる。	研究を推進する知識を備え、適切に活用できる。	研究を推進する知識の習得をしている。		
ポスター作成 課題研究発表会 レポート作成	創造 ～ 発展	学びに向かう力、人間性	Bの内容	多様な主体と連携する姿勢		
				他者との対話が自身の理解につながるという意識をもち、質問や指摘を受けて、自らの主張を再検討することができる。	他者との対話が自身の理解につながるという意識をもち、質問や指摘を受けて、自らの主張を再検討する姿勢を備えている。	他者との対話が自身の理解につながるという意識をもち、質問や指摘を受けることができる。
		思考力、判断力、表現力	Bの内容	伝えたいことを形にする力		
	知識及び技能	Bの内容	Bの内容	自己の研究を他者の視点で評価し、他者に分かりやすい形で再構成することができる。	自己の研究の全体像を理解し、自分なりの発表の形にまとめることができる。	フォーマットに則って研究内容を発表の形にまとめることができる。
				表現し連携する技能		
		聴衆の特性を理解し、質問の意図を正しく理解し、回答することができる。また聞き手として生じた疑問を質問できる。	聴衆の特性を理解し、質問を想定した準備ができる。また聞き手として生じた疑問を質問することができる。	質問を想定した準備ができる。また聞き手として疑問をもつことができる。		
振り返り	発展	学びに向かう力、人間性	Bの内容	主体的なキャリアデザイン		
				研究過程で、学んだことや気づいたことを、自己のキャリア形成に活かそうとすることができる。	研究過程で、学んだことや気づいたことを、今後の活動につなげようとするすることができる。	研究過程で、学んだことや気づいたことを、認識することができる。
		思考力、判断力、表現力	Bの内容	自己を客観的に見つめる力		
	知識及び技能	Bの内容	Bの内容	研究過程を振り返り、自分の進路形成の中でどのように生かしているかについて、自分の言葉で説明することができる。	研究過程を振り返り、自分の言葉で説明することができる。	研究過程を振り返ることができる。
				研究成果を活用する技能		
		研究内容に深い関心を持ち、学習終了後もそれと関わる意欲をもち行動できる。	研究内容に関心を持ち、自己に関わる問題として考察を巡らせることができる。	研究内容に関心をもっている。		

課題研究 3学期 自己評価シート

2年 組 番() 講座番号【 】 評価日(2021. .)

○以下は、皆さんの3学期の目標を表したものです。3学期の最後に、自分の取り組みを振り返り、自己評価をしてください。(各項目 A、B、C より一つ選び、○をつけてください。)

(1) 研究ノート 青い本 p.99 の書き方を参考にしましょう。

	授業中に取り組んだこと (学び)が書けている	気がついたこと (気づき)が書けている	活かしてみたいこと※ (活用)が書けている
A	○	○	○
B	○	○	なし
C	○	なし	なし

※次に何をするかを具体的に書く

(2) 多様な主体と連携する力

A	他者との対話が自身の理解につながるという意識をもち、質問や指摘を受けて、自らの主張を再点検することができる。
B	他者との対話が自身の理解につながるという意識をもち、質問や指摘を受けて、自らの主張を再検討する姿勢をもっている。
C	他者との対話が自身の理解につながるという意識をもち、質問や指摘を受けられることができる。

(3) 伝えたいことを形にする力

A	自己の研究を客観的に見つけ、他者に分かりやすい形で、論理的に組み立てることができる。
B	自己の研究の全体像を理解し、自分なりの発表の形にまとめることができる。
C	フォーマットに則って研究内容を発表の形にまとめることができる。

(4) 表現し連携する力

A	聞き手の特性を理解し、質問の意図を正しく理解した上で、回答することができる。また聞き手として生じた疑問を質問できる。
B	聞き手の特性を理解し、質問を想定した準備ができる。また聞き手として生じた疑問を質問できる。
C	質問を想定した準備ができる。また聞き手として疑問をもつことができる。

(5) 自己を客観的に見つめる力

A	研究過程を振り返り、自分の進路形成の中でどのように生かしていくかについて、自分の言葉で説明することができる。
B	研究過程を振り返り、自分の言葉で説明することができる。
C	研究過程を振り返ることができている。

○担当者に伝えておきたいこと、共有しておきたいこと書いてください。

課題研究 3学期 中間発表会 他己評価シート

2年 組 番() 講座番号【 】 評価日(2021. .)

◆以下の5つの内容について、3段階で評価をしてください。

(1) 伝えたいことを形にする力①

A	必要な構成要素(①課題の背景、②課題設定の目的、③研究手法、④考察、⑤展望、⑥引用・参考文献)が全て含まれており、その内容が充実している。
B	必要な構成要素(①課題の背景、②課題設定の目的、③研究手法、④考察、⑤展望、⑥引用・参考文献)が全て含まれている。
C	必要な構成要素(①課題の背景、②課題設定の目的、③研究手法、④考察、⑤展望、⑥引用・参考文献)が3つ以上含まれている。

(2) 伝えたいことを形にする力②

A	図や表を使って結果がわかりやすくまとめられている。また、発表中に図や表について説明がなされている。
B	図や表を使って結果がわかりやすくまとめられている。
C	図や表を使って結果がまとめられている。

(3) 伝えたいことを形にする力③

A	ポスターごとのつながり、見出しが効果的に使われており、論理の流れがわかりやすい。
B	論理の流れがわかりやすい。
C	論理の流れを意識して伝えようとしている。

(4) 表現し連携する力①

A	何を伝えたいかが明確になっており、声の大きさや目線、抑揚などの発表態度も適切である。
B	声の大きさや目線、抑揚などの発表態度が適切である。
C	声の大きさや目線、抑揚などを意識して発表しようとしている。

(5) 表現し連携する力②

A	聴衆の特性を理解して話ができており、質問者の意図を理解したうえで質疑応答を行っている。
B	聴衆の特性を理解して話ができており、質疑応答を行っている。
C	聴衆の特性を理解して話をしようとしている。

◆発表者に伝えたいことを具体的に記入してください。(よかった点・改善点・興味深かった点 など)

問いを立てよう ～「問いを立てる」って何だ？

(1) ワークシート1・2の「キーワード」から「問い」を立ててみよう。

「問いを立てる」とは「疑問を持つこと」と同じ。疑問文で書くことで、課題研究の具体的なテーマが見えてきます。

(例) キーワード：子ども食堂 / 問い：なぜ「子ども食堂」が始められたのか。

子ども食堂は子どもの居場所作りに役立っているのだろうか。

(2) さまざまな「問い」の種類について知ろう。

「問い」は下記の種類に分類されます。これらの「問い」を組み合わせると一つの「問い」を立てることもあります。

	「問い」の種類	「問い」の例
1	言葉の意味や定義を問う「問い」 言葉がどのような意味や定義で用いられているか	〇〇の意味は？ 〇〇の定義は？
2	原因（なぜ）を問う「問い」 原因とその結果は何か？	なぜ〇〇は生じているのか？
3	信憑性を問う「問い」 その現象が実際に生じているのか？	〇〇は本当に生じているのか？ <程度の比較>
4	比較を行う「問い」 その現象の程度や新たな側面は何か？	他国ではどのくらい〇〇が進んでいるか？ <他の国や地域との比較>
5	先行研究・先行事例を問う「問い」 これまでどのような取り組みや研究が行われてきたのか？	〇〇に対してどのような取り組みが行われてきたのか？ <これまでの取り組み>
6	影響を問う「問い」 今後どのような影響が生じるのか？実際に今、影響が生じているのか？	〇〇によってどのようなことが起こるのか？ <影響>

(出典：岡本尚也『課題研究メソッド～スタートブック～』、啓林館、2019)

(3) あなたが選んだキーワードについて「問い」を立て、それが上記の「問いの種類」どれに当たるか番号を記入してみよう。選んだキーワードは、枠内にメモをしておくといいでしょう。

問い	問いの種類

研究テーマ (何に焦点を当てていくかを書く。必ず、「自分事」にできるものに。)

研究課題 (リサーチクエスションのこと。なぜそれを研究するのか、目的をもって、適切な課題を設定しましょう。)

答えの見通し (結論ではありません。こんなことが考えられるのはいいか、こんなことが言えるのではないかという予想をここに。)



理由①	理由②	理由③
客観的根拠① (何が分かったのかな?)	客観的根拠② (何が分かったのかな?)	客観的根拠③ (何が分かったのかな?)
研究手法 (どのようにして客観的根拠を得る?)	研究手法 (どのようにして客観的根拠を得る?)	研究手法 (どのようにして客観的根拠を得る?)

以上のことから考察できること

今後の展望

